

第47回 廃炉・汚染水対策現地調整会議

議事概要

1. 開催概要

日時：平成31年1月10日（木）10：45－12：10

場所：いわきワシントンホテル【3階：アゼリアAB】

2. 出席メンバー

<政府>

磯崎 仁彦	原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
由良 英雄	原子力災害現地対策本部 副本部長
大橋 良輔	復興庁 福島復興局 次長
上谷 昌史	国土交通省 水管理・国土保全局河川環境課 河川環境評価分析官
熊谷 和哉	環境省 水・大気環境局水環境課 課長
三野 元靖	文部科学省 研究開発局原子力課 課長補佐
廣山 久志	水産庁 増殖推進部研究指導課 課長
松永 明	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策子一ム 事務局長補佐
新川 達也	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策子一ム 事務局長補佐
古賀 俊行	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策子一ム 事務局長補佐
比良井 慎司	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策子一ム 事務局総括
生越 晴茂	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 所長
木野 正登	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 参事官
小野 義世	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
佐々木 英治	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
川武當 晴美	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 廃炉・汚染水対策官
高倉 寧	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 課長補佐
秋元 正人	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所 係長
安田 峻	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
野村 幸広	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所
片山 淳	内閣府 廃炉・汚染水対策現地事務所

<原子力損害賠償・廃炉等支援機構>

上條 仁志 福島第一原子力発電所現地事務所 所長

<規制当局>

山形 浩史 原子力規制庁 緊急事態対策監
南山 力生 原子力規制庁 地域原子力規制総括調整官

川又 修司 厚生労働省福島労働局 労働基準部長

<東京電力>

小野 明 常務執行役 福島第一廃炉推進カンパニー プレジデント
大倉 誠 常務執行役 福島復興本社代表
梶山 直希 執行役員 福島第一廃炉推進カンパニー バイスプレジデント
矢代 一男 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 ユニット所長

<オブザーバー(福島県)>

成田 良洋 福島県 危機管理部 部長

●磯崎副大臣 冒頭挨拶

新年、あけましておめでとうございます。年明け最初の現地調整会議となりますが、本年も、廃炉・汚染水対策への対応状況を共有し、進め方などについてしっかりと議論したいと考えており、引き続きよろしく願いいたします。

昨年は、凍土壁の凍結完了や、使用済燃料の取り出しに向けた3号機のドーム屋根の設置完了、格納容器内部調査によるデブリの可能性のある堆積物の確認など、廃炉・汚染水対策に確実な進捗が見られた年となりました。11月に実施された、IAEAの専門家によるレビューミッションにおいても、「福島第一原発では緊急事態から安定状態への移行が達成されるなど、多くの改善が見られる」との評価をいただきました。

一方、3号機燃料取扱設備ではトラブルが相次ぎ、安全点検を通じ、一つ一つ丁寧に対策を講じてきたところです。本年は、安全を最優先に、万全の準備を整えたうえで使用済燃料の取り出しを進めるとともに、デブリ取り出しに向けた原子炉格納容器底部の堆積物の接触調査も進め、廃炉作業を更に前進したいと考えています。

本日の現地調整会議では、まず、建屋への雨水流入対策の進捗状況について報告を受けるとともに、津波対策をはじめとした大規模自然災害対策の検討状況等について報告を受けたいと思います。また、3号機使用済燃料の取り出しに向けた安全点検の結果や取り出し開始までの取り組み、2号機格納容器の内部調査計画についても報告を受けたいと思います。本日も忌憚のない活発な御議論をよろしく願いいたします。

3. 指摘事項

資料 1 - 1

- 中長期ロードマップにおける目標である、2020年内の汚染水発生量150m³/日達成に向け、雨水対策を進めるとともに、計画的に地下水位を低下し、建屋流入量を低減することが重要。
- 建屋屋根の損傷部など、目視で確認できている箇所についてはできるだけ前倒しで対策を進め、建屋流入量を低減していただきたい。
- 汚染水発生量の低減には、建屋流入量の低減だけでなく、ALPSの薬液注入量や、廃炉作業に伴い発生する移送量の低減も重要。これらは作業によって発生するものなので、うまく制御して確実に減らしていただきたい。
- 汚染水のリスクを低減するためには建屋滞留水の処理を進めることが大きな目標になるので、計画的に進めていただきたい。
- サイトバンカ建屋の流入量増加について、原因によっては他の建屋でも同じ事象が起きると懸念している。原因調査をしっかりと進めていただきたい。
- 千島海溝津波を想定して防潮堤を設置するとのことだが、これを超える津波が来た時の対応も併せて検討いただきたい。
⇒防潮堤は、切迫性が高いとされる千島津波に向けた対策として設置する。それ以上の津波が来た際にも引き波で建屋滞留水が流出しないよう、開口部の閉止を計画的に進め、東日本大震災クラスの津波に対応できるようにしたい。

●磯崎副大臣からの指摘事項

- 3号機燃料取り出しについて、燃料取扱設備のトラブルを受けて実施した安全点検・品質管理確認の結果をふまえ、3月末の取り出し開始までに、復旧設備の機能確認や燃料取り出し訓練等を確実に実施していただきたい。
また、それでもトラブルは起こりうることを前提に、作業員や周辺環境に与えるリスクを低減できるよう、十分な対策を取っていただきたい。3号機燃料取り出しに対する地元の関心は大変高く、念には念を入れた準備をお願いしたい。
- 2号機格納容器の内部調査について、堆積物の接触調査は、燃料デブリの取り出し方法や次の内部調査に向けて、堆積物の硬さなどの情報を得るための非常に重要な取組と認識している。可能な限り、次の内部調査等に生きる情報を多く取得できるよう、接触箇所の選定や習熟訓練など万全の準備を整えていただきたい。
- 3/4号機排気筒の足場落下について、他の排気筒の調査や原因調査を進めるとのことだが、福島第一原発内での事象は国民、県民の皆様の関心も高い。他にも構内に不安全な要素がないか十分に気を配り、万全の状況で廃炉作業にあたっていただきたい。

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡。